

4. サービスの内容(続き)

P3. 性能改善コンサルティング

独自の性能評価手法やフレームワークを使い、システム上の課題を明確にし、お客様と共に解決します。

【運用コスト削減(CPUダウングレード)】

無理のないCPUダウングレードにより、資源を効率よく活用することで、GS21/PRIMEFORCEを使いながらコスト削減を実現します。

【バッチ性能改善】

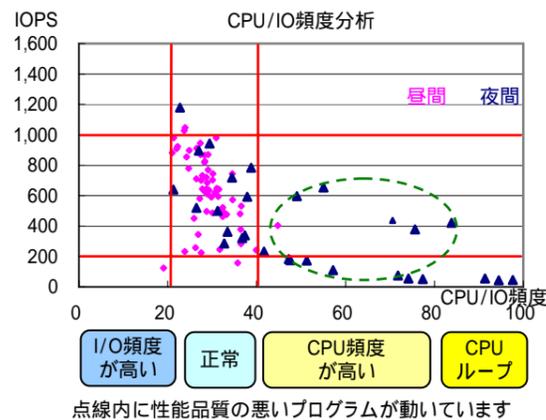
ハード増強に頼らないバッチ処理時間の短縮を実現します。

【オンライン性能改善】

お客様の状況に応じ、適切なレスポンス改善を実現します。

【システム統合最適化】

単純なCPU能力積上げ方式ではなく、資源の有効活用やAVMの特徴を考慮したシステム統合を実現します。



L. 証跡ログの評価サービス、整備・運用コンサルティング

GS/PRIMEFORCEの強みを生かしたIT全般統制構築を目指します。

【証跡ログ評価サービス】 システム標準のログを使い、ジョブ、TSS/AIF、データベースの稼動状況を正確に把握します。

【証跡ログの整備・運用コンサル】 お客様のニーズにマッチした証跡ログの使い方や運用についてアドバイスします。

S. よくわかるコンサル付きセミナー

時間がとれない、急に情報が必要となったお客様に、GS/PRIMEFORCEの本質を短時間で理解して頂くためのプライベートセミナーです。御社の実機を使った実習にも対応いたします。

【性能評価】 有賀式 - 性能評価手法、性能データの読み方、性能改善のポイントなど

【IT全般統制】 メインフレーム・RACFの基礎、GS/PFの強みを生かしたIT全般統制、証跡ログの読み方など

5. サービスの対象

サポート機種: GS21シリーズ、GSシリーズ、PRIMEFORCEシリーズ

サポートOS: OSIV/XSP、OSIV/MSP (メタボ診断はXSPのみ)

性能コンサルタント紹介

・有賀 光浩

1985年富士通株式会社入社、研修後、自動車製造業のお客様のチーフSEとして6年間担当する
1992年～2003年までの11年間、社内共通技術部門でGSシリーズを中心に性能コンサルティング、性能トラブル対応を担当する、担当したシステムは1,000を超える
2003年富士通退社後、独立し、2004年1月 株式会社アイビスインターナショナルを設立

・宮崎 伸一

1986年株式会社マネージビジネス入社
富士通システム技術部門でESP からXSPへの移行推進プロジェクトに参画
1992年～2005年大手通信系顧客等で運用部門の責任者として従事

論文・執筆

・【最新作】メインフレームの特徴を生かしたIT全般統制(ITGC)構築のポイント

・メインフレームのパフォーマンス改革2004

- お客様が感動したチューニング効果とコスト削減のプロローグ

・性能管理・改善のブレークスルー

- 自らの常識を破り、どのように性能改善をしたか

株式会社ビーエスピーソリューションズ様運営 - カイゼン活かす - サイトで連載中

・メインフレーム改革! お客様視点・現場重視の性能評価

- 3割のコスト削減・性能向上・満足度向上運動

・メインフレーム改革! 性能品質向上への挑戦

- CPU統合の見える化と改善

性能評価・IT統制のノウハウを公開中! 「メインフレーム研究会」 <http://www.ibisinc.co.jp/>

アイビスインターナショナルは、富士通Platform Solution Centerのアライアンスパートナーです



株式会社 アイビスインターナショナル <http://www.ibisinc.co.jp/>

〒134-0003 東京都江戸川区春江町4-17-12

TEL 03-3653-2340 担当 有賀 070-5566-4063 e-mail: info06@ibisinc.co.jp

コラボレーションスペース: 東京都千代田区丸の内1-5-1 新丸の内ビルディング10階



富士通メインフレーム

GS21 PRIMEFORCE

サービス・コンサルティングのご案内

株式会社 アイビスインターナショナル

<http://www.ibisinc.co.jp/>

お客様が満足感を持ち安心してGS/PRIMEFORCEを使い続けて頂けるために

トリプルスリー Triple 3 (3割のコスト削減、3割の性能改善、そして3割の満足度向上)をご提供します

アイビスインターナショナルは、現場、智恵、スピードを重視します。メインフレームが企業価値を生み出す経営資源であり続けるために、お客様の課題解決をご支援します。

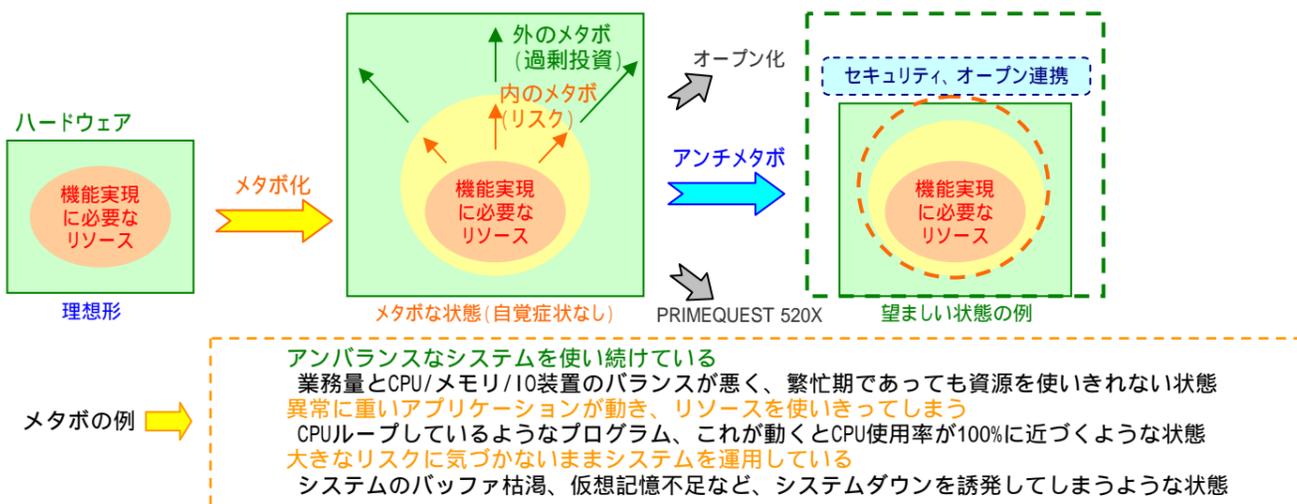
1. 性能を切り口にしたITシステムのライフサイクル

システムの性能はサービスレベルを測定するための重要な軸であり、品質・信頼性・コストもこれに連動します。



2. GS/PRIMEFORCEのメタボが進行中

メタボな状態とは、内のメタボ(リスク)と外のメタボ(過剰投資)により、システムが膨張している状態をいいます(図中央)。



Tips よく使う性能データ、証跡ログについて

PDL (Performance Data Logger)
CPU使用率などハード資源の使用状況やオンラインプログラムの処理時間などAIM環境の使用状況を把握する。
PDLを採取しているつもりで、正確に採取できていないケースが非常に多い。
PDA (Performance Data Analyzer)
採取したPDLデータをリスト形式に出力するプログラム。

SMF (System Management Facility)
課金統計情報といわれる。ジョブの開始・終了時間やCPU時間などが蓄積される。
時々、テープへの退避要求が来るので吸い上げているデータ。
RACF (Resource Access Control Facility)
利用者管理とアクセス管理を提供するプログラム。証跡ログの一つとしても利用されることが多い。

3. GS/PRIMEFORCEのサービスメニュー

企画・設計(次機種へ移行時)	開発・導入	運用
M. メタボ診断サービス	オプション: 稼動診断サービス、メタボ改善プログラム	
P1. 次機種選定サービス	P2. 性能診断サービス	
P3. 性能改善コンサルティング 運用コスト削減(CPUダウングレード)、バッチ性能改善、オンライン性能改善、システム統合最適化等		
L. 証跡ログの評価サービス、整備・運用コンサル		
S. よくわかるコンサル付きセミナー		

4. サービスの内容

M. メタボ診断サービス

システムを4つのステップで診断すると、内のメタボと外のメタボの状態がわかります。
必要なデータは、PDL/PDA(3~5日分、平常時で可)、システム環境のパラメタ、システム起動時のメッセージログ(任意)だけ。
メタボ診断を行うと、お客様に気づきや智恵が生まれます。
・システムの賞味期限を延ばすコソ
・潜在しているリスク など

ステップ1 CPU/I/O頻度とIOPSで性能リスクを判定

IOPS < 100が8割以上 または < 200が9割以上 ... A
IOPS 100 かつ 20 CPU/I/O頻度 40が7割未満 ... B

ステップ2 診断結果により追加リスクをカウント

CPU	仮想/実メモリ	DASD I/O	その他
CPU使用率 > 80% または < 20% が 8割以上	VS指数 定義値の正当性が1つ以上check	IOPS > 200 または > 100 で全体の1割以上	システム環境 オンラインの判定が1つ以上check

ステップ3 ステップ1, 2から内のメタボ状態を判定

ステップ4 ステップ1, 2から外のメタボ状態を判定

P1. 次機種選定サービス

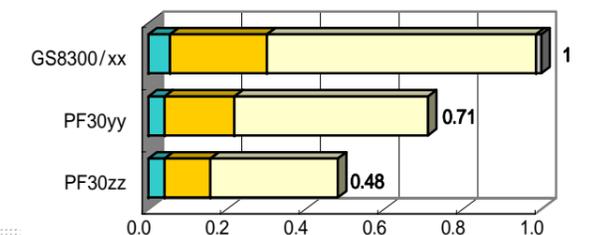
GS21やPRIMEFORCEに移行したときの性能予測を行いながら最適な次機種を選定します。

- 3つの性能予測機能
- ・CPUレベルアップ時(単純移行)の効果予測
 - ・CPUダウングレード時の性能予測
 - ・CPU統合時、AVM(仮想システム)を考慮した性能予測

特徴

- ・独自の手法で業務を分類し、性能モデルを作成します。
- ・CPUとI/Oのバランスを考慮した予測が可能です。
- ・バッチ処理、オンライン処理ごとの予測が可能です。

CPUレベルアップによるバッチ処理時間改善予測



P2. 性能診断サービス

ハードウェアの性能向上、オープン化などの環境変化に伴い、性能評価の方法も年々変わってきています。性能診断サービスでは、システムの稼動状況が見える化し、問題点の抽出、原因分析および改善案立案を行います。従来の性能指標値との比較や一般論ではなく、効率性・信頼性・安定性といった視点でも診断します。

- 特徴
- ・独自に開発したCPU/I/O頻度分析(次ページ)により、システムの状態を客観的に把握することができます。
 - ・迅速かつ精密な仮説検証型性能解析を行うことで、アプリケーションの性能分析を実現します。